

## 全国健康保険協会の業績に関する評価（その他）

※ 評価欄の判定基準は、S・A・B・C・D

【判定基準】 S：目標を大幅に上回っている A：目標を上回っている B：目標を概ね達成している C：目標をやや下回っている D：目標を下回っており、大幅な改善が必要

I 24年度事業計画	評価等			
<p>【評価の視点】 支部管内の事業主（健康保険委員）との連携を進めるため、どのような取組みを行っているか。保健事業の推進などについて、よりよい協力関係を築き、事業主等との連携強化を図っていくため、どのような取組みを行っているか。</p>	<p>&lt;事業報告（概要）&gt;</p> <p>【事業主への働き掛け】 24年度には、事業主及び加入者の保険料負担の軽減を求めるための署名活動を行い、多くの事業主及び加入者の協力の下、320万筆を超える署名を集めることができました。この署名活動をきっかけとして協会の取組みに理解を示していただける事業主や加入者が増加し、多くのマスコミでも取り上げられるなど、国や国会議員等に協会の切実な財政状況を訴えるための広報としても非常に効果の高いものであったと考えております。</p> <p>また、健康に対する事業主の意識を高めいただくために、支部幹部職員が中心となり、個別事業所単位の健診・医療費データを活用した「事業所健康度診断」を事業所訪問時に持ち参り、保健指導の必要性を理解いただけるよう積極的に訪問勧奨を行いました。</p> <p>特に、鳥取支部においては、事業主との距離を縮めるため営業力のある職員の育成を目的としたマニュアルを作成、活用し154事業所のうち83事業所で保健指導を受け入れて頂きました。この取組みについては、25.3月の全国支部長会議の場において、鳥取支部より他の支部の取組みに活用できるよう実施手順についての詳細説明を行いました。</p> <p>【事業主との連携強化】 健康づくり推進協議会や支部評議会、地域職域連携協議会等を通じ、協会支部における保健事業を円滑かつ効果的に推進するため、事業主等から支部に対し必要な提言及び助言等幅広く意見をいただき以下のような取組みを行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所も被扶養者の健診受診拡大に活用した方が良いとの意見をいただき、事業所にも被扶養者の健診について積極的な広報を行いました。</li> <li>・年に2回健診を実施する事業所において1回目の健診結果をもとに2回目の健診時に保健指導を実施してはどうかとの意見をいただき実践しました。</li> <li>・保健指導の効果を把握することで保健指導を利用しない従業員への周知が行いやすいとの意見をいただき、保健指導利用後の効果（腹囲、体重の変化）を事業主にフィードバックしています。この他にも、多くの意見をいただき事業主との身近な関係構築に努めています。</li> </ul> <p>≪参考：健康づくり推進協議会委員構成≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被保険者代表、事業主代表、健康保険委員代表、保健医療関係者、学識経験者、その他必要と認められる者（行政等）から、15名以内で構成。</li> </ul> <p>24年度の1支部当たりの平均委員数は9名で、年間平均1.8回開催しています。</p> <p style="text-align: center;">&lt;次頁に続く&gt;</p>			
<p>&lt;自己評価&gt;</p> <p>24年度は、協会の財政基盤強化や高齢者医療制度の見直しの必要性を事業主及び加入者、また協会以外の加入者にも幅広く理解を求めていく必要があり、協会の考え方を広く国民に訴えることを目的として「やれることは全てやる」という姿勢で様々な取組みを実施しました。</p> <p>その中においても、事業主及び加入者との連携を深めるという点において、「署名活動」は効果の高いものであったと考えています。</p> <p>また、保健事業の推進という点においては、多くの事業所を抱えている中で、出来るだけ多くの事業所との身近な関係を構築するため、事業所への訪問勧奨の工夫や、職員の営業力強化を図るほか、事業主等から意見や助言をいただきながら、事業所との連携を図るための健康づくり事業など様々な取組みを実施しています。</p> <p>特に、鳥取支部での営業力のある職員の育成においては、過去に保健指導を断られた154事業所のうち、54%にあたる83事業所で保健指導を受け入れていただくなど大きな成果を上げています。</p> <p>なお、24年度からは、健康保険委員表彰制度を制定し、理事長表彰70人、支部長表彰232人の合計302人の健康保険委員表彰も実施しています。</p>	<p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">A</p>	<p>&lt;委員ご意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「事業所健康度診断」の取組みなど様々な手法で事業主へ働きかけを行ったことを評価する。</li> <li>○引き続き、事業所健診のデータ取込みの理解促進を含め、重点課題として取組みを進めるべきである。</li> <li>○なお、支部評議会の活性化に向け、支部評議員に対する研修会等を実施すべき。</li> <li>○船員保険については、船員の健康・安全活動に取り組んでいる海員組合との連携をはじめ、労使との連携強化をはかって行くべきである。</li> <li>○保健指導について、鳥取支部の例は担当者の熱意が各事業所に受け入れられたものと考えられ、協会が熱意を表わすことの大切さを示している。</li> <li>○協会けんぽの事業運営を進め、効果をあげる観点で、健康保険委員の制度化の意義は大きいと考える。</li> <li>○また、事業主を動かす観点から、保健事業（従業員の健康づくり支援）を医療費軽減の目的に限定せず、生産性の維持・向上に資するものとし、事業主（企業トップ）が経営課題に位置づけ、活用したいと思うようにしていくことが大切である。</li> </ul> <p style="text-align: center;">&lt;次項に続く&gt;</p>	<p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">B</p>	<p>&lt;最終評価&gt;</p> <p>●「事業所健康度診断」を用いた事業主への働きかけの取組みや、事業主との連携強化に向けた取組みとして、支部評議会等を通じて事業主からいただいた意見を元に事業所に対する被扶養者の健診について、積極的な広報を実施したこと等については評価できるものである。今後、事業主との連携強化のため、相互の信頼と協力関係の構築に取組まれない。</p>

※ 評価欄の判定基準は、S・A・B・C・D

【判定基準】 S：目標を大幅に上回っている A：目標を上回っている B：目標を概ね達成している C：目標をやや下回っている D：目標を下回っており、大幅な改善が必要

I 24年度事業計画	評価等	
<p>【評価の視点】 支部管内の事業主（健康保険委員）との連携を進めるため、どのような取り組みを行っているか。保健事業の推進などについて、よりよい協力関係を築き、事業主等との連携強化を図っていくため、どのような取り組みを行っているか。</p>	<p>&lt;事業報告（概要）&gt; &lt;前頁からの続き&gt;</p> <p>【支部独自の健康づくり事業】 それぞれの支部において、健康保険委員研修会やウォーキング等の運動促進、禁煙促進運動、糖尿病等をテーマにした健康づくりセミナーの開催、職場における健康促進活動の支援、メンタルヘルス対策などの取り組みを通じ事業主との連携強化を図っているほか、学校での健康づくり教育などにも取り組んでいます。 [別紙6参照]</p> <p>【健康保険委員表彰制度の制定】 24年度からは、健康保険委員表彰制度を制定し、理事長表彰70人、支部長表彰232人の合計302人の健康保険委員表彰を実施しました。</p>	
<p>&lt;自己評価&gt;</p>	<p>&lt;委員ご意見&gt; &lt;前項からの続き&gt;</p> <p>○全く同意である。実現できるよう共に協力されたい。</p> <p>○消費税が上がる。一般人の不満も上がる。協会の業務内容も必ず上がるよう協力されたい。</p> <p>○協会と事業主・加入者との連携を強めるという点で「署名活動」など積極的な取り組みを行ったことを評価したい。今回は「保険料率」という中小企業の経営に直結する課題であったことから事業主側も積極的な対応を示したと思われるが、今後、保健事業などにおいても協力関係を構築していくことを期待したい。</p> <p>○中小企業の事業主・加入者との連携を強化していくことは容易なことではないが、さまざまな事業活動を展開していくなかで相互の信頼と協力関係が醸成され、協会が中小企業の連帯における1つの核になることを期待したい。今後、保険料率の引き上げなど苦しい財政状況が続くと思われるが、中小企業が協会けんぽと対立・離脱することなく、相互の協力と信頼関係をベースに協会の機能強化に向けた活動を展開することが望まれる。</p>	<p>&lt;最終評価&gt;</p>